

# 子どもたちの活躍を地域のエネルギーに

～お互いを「信頼」でつなぐネットワークを大切に～ 【長門市 深川中学校区】

## 地域の概要

深川地区は、市中央部に位置し、北部は日本海に面する漁港や長門市駅を中心に公共施設や商業施設があり、中部には湯本温泉街の観光地、南部には、農山村の渋木地区と広範囲にわたっています。校区内には、市役所の直近に中央公民館が設置され、社会教育団体等を中心に年間4万人の利用者があり、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての重要な役割を担っているところです。平成28年度からは、俵山中学校が深川中学校に統合される予定で、俵山公民館との連携を図っていく必要があります。

人口	13,590人	
世帯数	6,060世帯	
対象校及び 児童生徒数	深川中学校	298人
	深川小学校	536人
	向陽小学校	58人

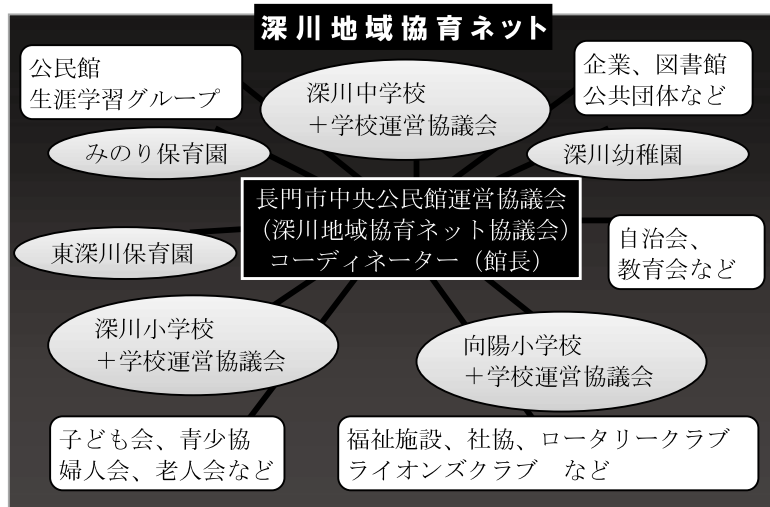
## 組織の内容

**【これまでの経緯】** 深川中学校区では、1中学校と2小学校で、ともに学校・家庭・地域が連携し子どもたちを育てていこうとするコミュニティ・スクールに取り組んでいます。従来から、小・中学校ともに、学校支援ボランティアや外部講師による学習や地域の方々による見守り隊など、地域の「ひと・もの・こと」と関わりをもち、「地域総がかりで子どもを育てる」という活動が随所で行われていました。そこで、それぞれ独自に進められている既存の学校支援組織や団体をはじめとし、公民館で活動している社会教育関係団体や関係諸団体を網の目のように結んで「地域協育ネット」として進めています。

**【組織と運営】** 地域の多くの方が「つどい」、「まなぶ」公民館には、生涯学習の拠点としてだけでなく、地域づくりの拠点としての役割が求められています。地域総がかりで子どもの育ちに関わるためには、公民館に集う生涯学習グループや社会教育関係団体等は大きな力になります。

そこで、公民館の既存の組織による地域協育ネット協議会を立ち上げ、公民館職員がコーディネーター役を担う公民館型の「地域協育ネット」

に取り組んでいます。普段から、学校や地域、公民館に集うグループ、団体等と情報共有を図りながら、公民館だよりや学校だよりで情報発信を行い、学校と共にある地域づくりをめざしています。



## 特色・重点的な取組

公民館型の「地域協育ネット」は、地域全体で子どもを育てるという視点から、地域づくりの活動へとつながっていくという意識のもとに取り組んでいます。また、各学校の既存の学校支援ネットワークと公民館がもっているネットワークをつなげることにより、小・中学校における教育活動支援について、今まで以上に多様な活動を企画し、効果的な支援を行っています。土曜日の子どもの居場所づくりの必要性を感じて、体験学習を通じた子どもたちの感性を磨き、学年の異なる縦割り活動の中でリーダーシップを養い、多様な地域の人との関わりの中でコミュニケーション能力を育てていく実践活動を更に充実します。子どもと地域の大人の思いを吸い上げることで、好循環を生むと考えて取り組んでいます。

## 主な活動の紹介

【学習支援】外部講師を学校の学習計画の中に位置付け、子どもたちが興味・関心をもち意欲的に学習に取り組めるよう、教員は地域の方の参加による授業を積極的に進めています。授業に参加された地域の方々も、普段やっている学びが活かされたという満足感を感じておられ、今後の活動の意欲付けにもつながっています。



クラブ活動「琴の指導」



伝統行事「サバー様」



絵手紙指導



ラグビー指導

【わくわく土曜塾、わくわく子どもクラブ】公民館では、土曜日の子どもの居場所づくりとして「わくわく土曜塾」、「わくわく子どもクラブ」を行っています。生涯学習グループや高校、各種団体と連携し、様々な体験活動を実施することができるのも公民館型の「地域協育ネット」のメリットです。



水辺の教室



サツマ芋の収穫



楽々団とのコンサート



サトウキビ収穫



料理教室



絵画教室



将棋教室



かるた教室

## 成果と課題

【成果】公民館に集う生涯学習グループや各種団体が学校へ出向き、子どもたちと活動することが、日常的に行われるようになってきています。学校も地域の「ひと・もの・こと」との関わりを年間学習指導計画の中に位置付け、子どもたちが興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組むようにしています。また、校内にコミュニティルームを新設することで、地域の方が学校で活動できるようになってきました。

【課題】「地域総がかりで子どもを育てる」という意識は、実践や広報活動等により地域の理解が進み、協力を得られるようになってきましたが、学習支援活動を行う個人や団体の高齢化、リーダー不足などの人材育成など、今後、将来を見据え、更に若者や地域の方を巻き込んだ支援体制の方策を考えていく時期にあります。

## 今後の取組

「地域協育ネット」を更に定着させるためには、関係者が互いに連携を図り、継続性のある具体的な仕組みづくりとして推進していくことが重要であると考えます。子どもたちを中心とした「縁」を大切に、地域のきずなが広がり深まっていくことによって、地域が活性化していく可能性があります。そのためにも、地域と学校が子どもたちの豊かな心の成長につながる願いを共有しつつ、効果的な連携・協働を図りながら、生きる力の育成に向けた取組を実践していきたいと思えます。